

巻 頭 言



取締役・専務執行役員
武井芳明

「企業活動と環境問題」

現在、環境問題が地球規模にまで発展していることは、皆さんご承知の通りであります。オゾン層の破壊による紫外線の直射、酸性雨による森林破壊など、その中でも最も深刻なのが地球温暖化であり近年の異常気象や海面の上昇などを引き起こす原因となっています。なぜ、このような環境問題が起こってしまったのでしょうか。

原因として産業革命以降、二百年の間による科学の急速な進歩があげられますが、最大の理由は企業等が自己中心的な行動をしてきたことにあります。企業等の利益を第一に考え行動したことにより、地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの汚染物質を排出し、その結果として地球の再生能力で対処可能な範囲を大きく超え、これらの深刻な問題が生じています。

弊社は経営理念に「環境との調和」、「社会との共生」を掲げ、環境への対応なくして企業の将来はないとの基本認識の元、環境保全活動を継続しています。

2020年VISIONでは 環境保全、省エネ、(安全)分野のダントツ技術開発をめざし

- ・HV, PHV, EVの普及につながる新商品の開発
- ・世界の照明市場をリードする業界トップのLED技術開発
- ・脱石油, リサイクル技術を始めとする新技術の開発 を活動の柱として取り組んでいます。

第5次環境取り組みプラン(2010年度発行)では 環境にやさしいものづくりと製品の提供を通じ、低炭素・循環型社会の構築と自然共生社会の構築に貢献していくため「環境負荷低減」、「環境経営」という2つの柱で取り組みを推進しています。

今後、企業としては、地球環境をこれ以上悪化することなく、世の中の消費を支えるために、自然が再生する力やスピード、世の中が利用する量やスピードも考慮し、資源を使いきらないよう、地球の生態系まで配慮し計画性をもって生産された製品を消費者に選んでもらうことで、環境の保全を実現するという「持続可能な社会」をめざした環境への取り組みが必要です。そのために技術者として、自らが設計する製品・設備の原材料から製造・使用・廃棄に至る全てのプロセスでの環境への影響を把握し、どうしたら環境への影響を少なくできるかを考え技術開発を進めて欲しいと考えています。

今回は、持続可能な社会をめざした環境への取り組みの特集号として掲載させて頂いており、名古屋大学大学院環境学研究科の佐野教授にもご執筆いただいています。これからの環境の取り組み・持続可能性と学習する組織 - について興味を持って、ご一読いただければ幸いです。